

文教大学情報学部 社会調査ゼミナール研究報告

大学生が思い描く家族形態

平成20年2月

情報学部 広報学科 3年生

内野 涼介

目次

第1章 研究概要	1
1.1 研究の背景・及び目的	1
1.2 研究方法	2
(1) 進捗経緯	
(2) 成果の概要	
(3) 調査の意図	
1.3 成果の概要	3
第2章 研究結果	7
2.1 回答者の概要	7
2.2 家族形態が子供時代の経験に及ぼす影響	8
(1) 家族形態・祖父母の近居状況の集計結果	
(2) 子供時代の生活と第三者との接触経験	
(3) 子供時代の生活と第三者との接触機会	
(4) 子供時代の生活と伝統・習慣	
(5) 出身の家族形態と拡大家族への意識	
(6) 出身家族の形態と核家族化への問題意識	
2.3 大学生が描く将来の家族像	14
(1) 将来求める家族形態	
(2) 出身の家族形態と将来希望する家族形態	
(3) 核家族化への問題意識と将来希望する家族形態	
(4) 出身の環境と将来の家族形態	
(5) 希望する家族形態と家族への意識	
第3章 総括と今後の課題	19
参考文献	20
資料・単純集計結果	21

第1章 研究概要

1.1 研究の背景と目的

私は生まれてから16年ほど、藤沢は鵜沼に住んでいた。この地は、東京郊外の閑静な住宅・別荘地として古くから名を馳せてきた地であり、同時に続々と新たな住宅の建っている地でもあった。そのため、古い住人による拡大家族と新たに移り住んだ住人による核家族とが、ほどよく混在していた。このような環境に身を置いていたため、日本では核家族が大勢を占めているという話を聞いても、どうも現実味を感じられなかった。私にはそんな記憶がある。

世帯主夫婦＋子供夫婦＋孫といった風に、多世代が同居する家族が拡大家族である。この拡大家族は、昭和35年には全体の3割を占めていた。ところが、夫婦＋子供という形態、つまり核家族が定着した現在では、全体の1割程度となっている。実はこうした傾向は、団塊世代が作り上げたものである。昭和40年代、2～3人の子供を持った夫婦は、緑多く生活にも便利な、郊外にある造成されたばかりの団地やニュータウンに、世帯を構えるようになる。こうして、この後の世代も、それぞれ少しずつ趣向は違いつつ、結局「夫婦と子供が何人」といった形の核家族を形成していく。

こうした核家族化は、家族を運営する側からすると、実に合理的である。構成がコンパクトなために、金銭的にも精神的にも負担が無い。サラリーマンの夫が転勤の辞令を受けたとしても、それを家族単位で受け入れ、さらに住まいを転ずるにも、部屋の大きさもそれなりであればよいという気軽さを持つ。団塊から下の世代にとってこれらは、何よりも大きな利点であろう。そして夫婦＋子供という家族構成は、いつしか政府が認めた「標準」となる。しかしこうした核家族化は、行動が家族中心となる為、少しずつ近所づきあいを狭めていく。現代における核家族の子供は「親またはそれに世代の近い少数の近所・知り合いの人など（つまり大人）」か「周りにいる友達（つまり子供）」という、単純な関係しか身近に持たず、それ以外の存在は失われている。気が付けば子供から社会性が欠如し、それによる協調性のなさは、学級崩壊を生んだとされる。

しかし、こうした家族を取り巻く現実も、世代が進み、様相が変わってくる。バブルが崩壊した後、就職難にのまれた世代が、結婚をした後も親に生活を委ねるケースが出てきているというのである。さらに、こうした現状から、親と近居し、互いに協力し合いながら生活するという形態が、今後に有利な生活形態になると言う。

さて、このような現実の中、晩婚化は進んでいるものの、まさにこれから世帯を持つべきであろう大学生。今の大学生にとって、家族とはどのような存在で、また、将来家族を持つとしたらと言う未来像をどう持っているのか。それは拡大家族で育ったものと核家族で育ったもの、それぞれでどういった差が現れるのだろうか。そういったところを調べたく、この調査を企画した。

1.2 研究方法

(1) 進捗経緯

4月・5月・6月：研究テーマ模索

7月・8月：研究テーマ決定・具体化

9月：調査票作成・予備調査実施

10月・11月：本調査実施・エディティング・集計・研究

12月：調査報告提出

1月・2月：調査報告訂正

(2) 調査の概要

・調査対象者と調査方法

調査時期：平成19年11月初旬

調査対象者：文教大学湘南校舎所属の学生

調査方法：調査票を授業内で配布・回収し、集計をおこなった。なお、授業の担当教授には、事前に了承を得た。

実施授業：平成19年10月30日（火曜日）3時限目・出版論Ⅱ

同年11月1日（木曜日）3時限目・社会学特殊講義B

配布数：100

回収数：98

うち無効票：2（両授業計）

(3) 調査の意図

幼少時の経験や、現状の家族に対する考え方などを、成長過程での環境によって比較する。

拡大家族と核家族、核家族の中でも祖父母が近居しているかどうか、親類が近居しているか、家族構成による人数の多少と、身近に多世代が同居ないし近居しているかによって、それぞれに差異が現れると仮定し、その比較を行うことに重点を置いて調査を行う。

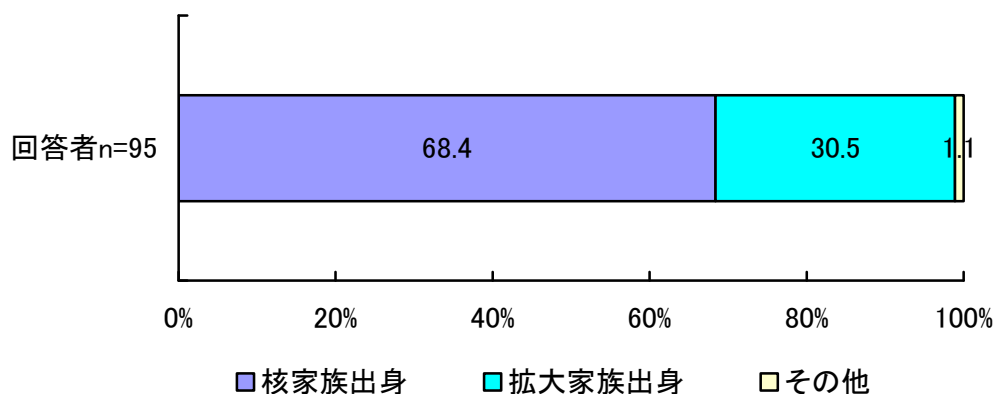
・調査項目

- ・ 家族構成、構成人員、家族の勤務形態
- ・ 子供時代の経験、生活
- ・ 現在の家族への考え方、依存度
- ・ 将来、どういった家庭環境を望むか

1.3 成果の概要

始めに、出身の家族形態を以下の図 1-3-1 に示す。

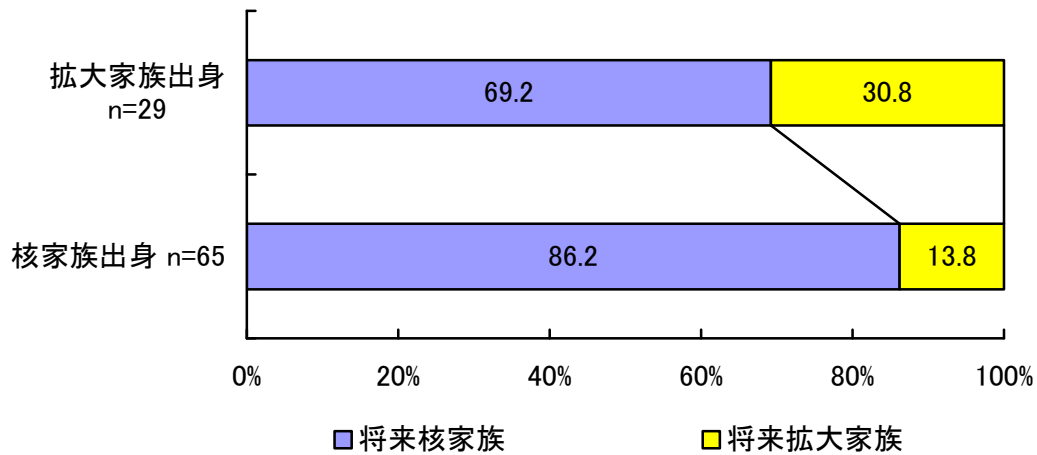
図 1-3-1 核家族と拡大家族



核家族 68%、拡大家族 31%となった。今や拡大家族が 1割と言われる中、比較的拡大家族の出身者が多かった。

続いて、以上の結果と将来希望する家族形態との比較を図 1-3-2 に示す。

図1-3-2 出身家族形態と希望家族形態(x2乗:0.023)



大家族希望者が、核家族出身では14%だったのに対し、大家族出身者では31%となり、大家族を希望する回答が多い傾向が見られた。育った家族の形態によって、将来像が若干変わってくるのではないと思われる。

ここで述べている将来の家族形態への希望について、それぞれのグループの違いはどのような点なのか。大家族の利点を取り上げて、それぞれのイメージを聞いた。結果を以下の図1-3-3に示す。これは、「1. あてはまる」から「5. あてはまらない」という選択肢の回答番号の平均値を、核家族を希望するグループと大家族を希望するグループのそれぞれで求めたものである。

これによると、核家族希望者も、大家族の利点については、認めているとの結果が出た。

また、同じく将来の家族形態への希望と、核家族化への問題意識を問うた設問を比較した。結果を以下の図1-3-4に示す。

これによると、大家族希望者の方が、この問題に対し、問題意識を抱いている者が多いとの結果が出た。つまり、大家族希望者の中には、核家族化への問題意識によって、大家族を希望したという者がいることを推測できる。

図1-3-3 拡大家族の利点に対するイメージ

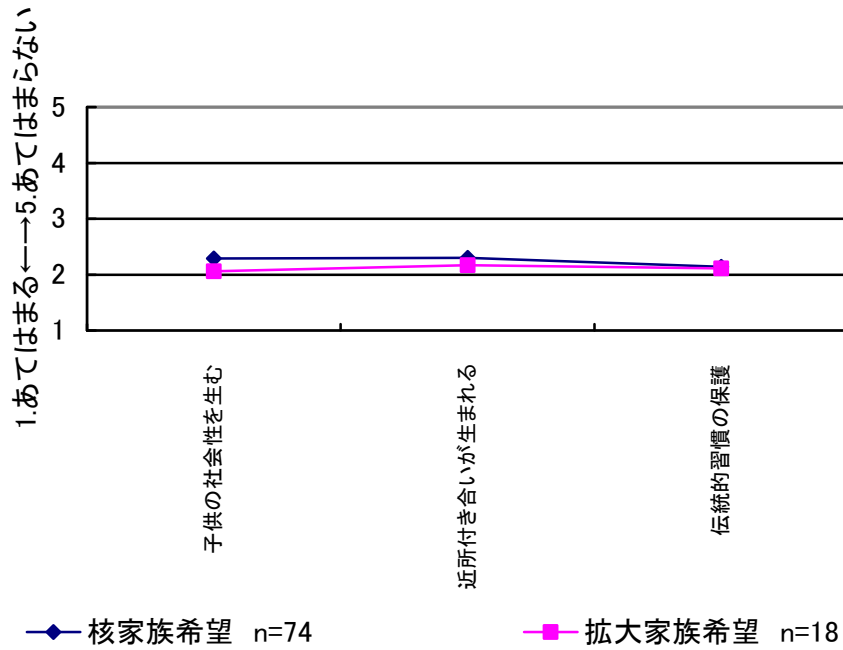
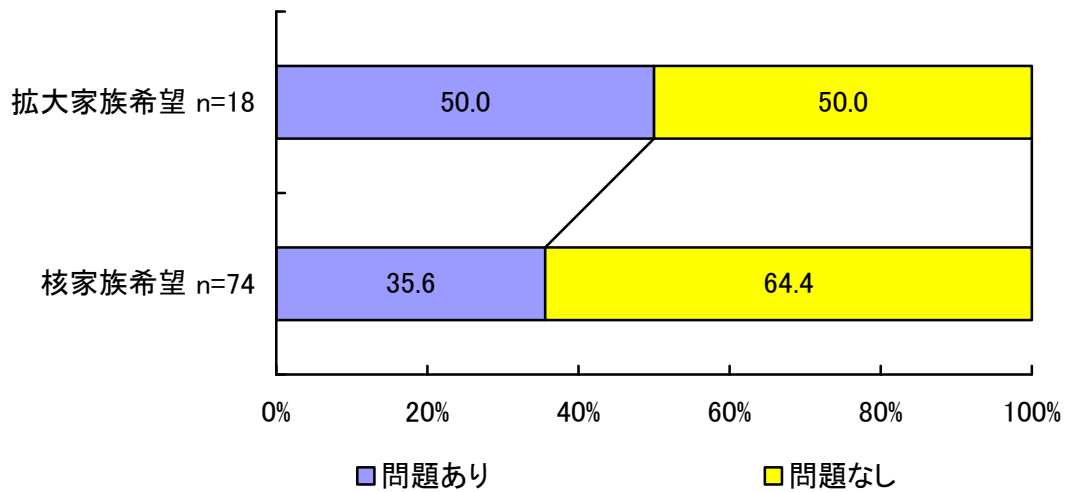


図1-3-4 核家族化への意識と希望家族形態



このほか、成果として挙げられる点は、次の通りである。

- ・ 拡大家族出身者は、近隣の大人との接触など、幼少時の経験が豊富である。
- ・ 拡大家族出身者・拡大家族希望者共に、核家族化の問題の認識が強い。

・拡大家族希望者は、田舎出身者に多く見られる。

なお、詳しくは2章以下を参照頂きたい。

[謝辞]

本研究を進める中で、調査の実施に際しては、多くの学生の方々から回答を頂いた。また、調査を行った授業では、担当の先生方のご厚意によって、貴重な授業時間を本研究にお貸し頂いた。まず、このように調査にご協力頂いた皆様に対し、心から御礼を申し上げる次第である。

調査票を作成するまでの過程では、八ツ橋ゼミの所属メンバーをはじめとして、多くの方から示唆を頂いた。また研究の実施全般について、指導教授の八ツ橋先生から様々な示唆を頂いた。これらの皆様に対して、改めて謝意を表す。

第2章 研究結果

2.1 回答者の概要

調査に際し、母集団を文教大学湘南校舎所属の学生とし、先述した2つの授業に於いて配布し、その場で回収を行った。従って回答標本は、該当授業を受講する生徒となる。

なお、回答標本は無作為抽出で作成してはいないために、母集団から見て標本に偏りを生じる可能性がある。そこで回答者の分布を、表2-1-1と表2-1-2で確認しておく。表2-1-1の学年別の分布では、2年生と3年生の割合が、どちらも45%前後、4年生は6.3%であった。なお、該当授業は1年生が受講できない物であったため、1年生はゼロとなる。また、表2-1-2の性別の分布では、男子が45%、女子が52%となっている。これらの偏りは、回答者全体の分布にはそれなりの影響を与える可能性があり、解釈時には注意が必要である。しかしクロス集計やグループの平均などの層化を行った集計では、影響は限定されると考えられる。

表2-2-1 回答者と母集団の比較・学年別分布（上段：% 下段：実数）

	1年生	2年生	3年生	4年生	無回答	計
回答者	0 (0)	44.2 (42)	47.4 (45)	6.3 (6)	2.1 (2)	100.0 (95)
湘南校舎学生	27.3 (934)	26.7 (912)	21.3 (727)	24.7 (843)	0 (0)	100.0 (3416)

※母集団は、文教大学湘南校舎における、平成19年10月末時点での数値である。

表2-1-2 回答者と母集団の比較・性別での分布（上段：% 下段：実数）

	男性	女性	無回答	計
回答者	45.3 (43)	52.6 (50)	2.1 (2)	100.0 (95)
湘南校舎学生	52.5 (1792)	47.5 (1624)	0 (0)	100.0 (3416)

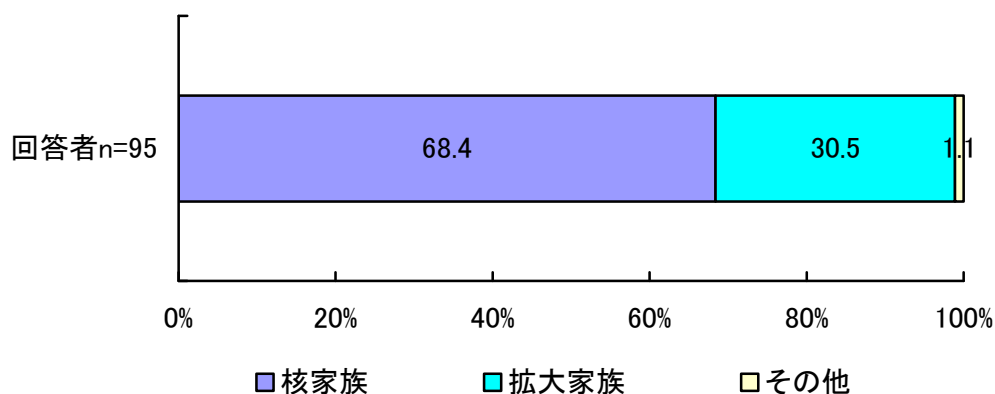
※母集団は、文教大学湘南校舎における、平成19年10月末時点での数値である。

2.2 家族形態が子供時代の経験に及ぼす影響

(1) 家族形態・祖父母の近居状況の集計結果

調査では始めに、育った家族が核家族か拡大家族かを聞いている。まず、その結果を図2-1-1に示す。

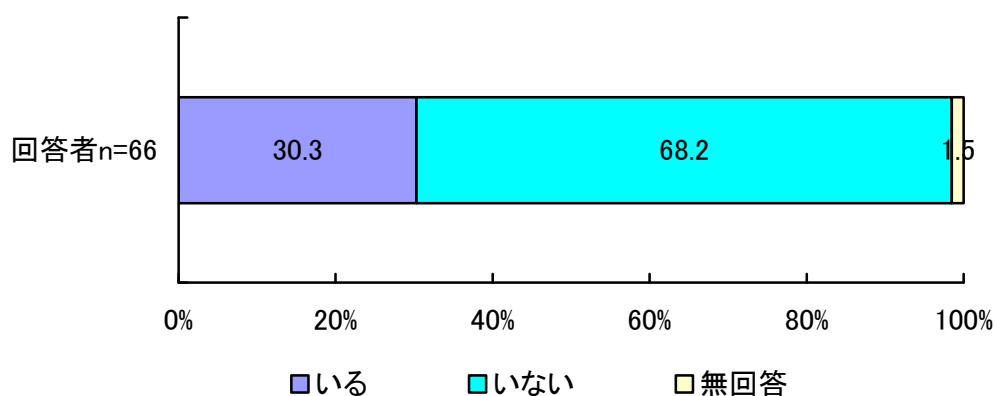
図 2-2-1 核家族と拡大家族



このように、核家族が68%、拡大家族が31%であった。

調査では引き続いて、この核家族の中で、祖父母が近所に住んでいるかどうかを尋ねた。これは、例え核家族であったとしても、近所に祖父母がいることによって、子供にとって拡大家族と同じ働きをしていると推測しての設問である。結果は図2-2-2で示す。

図 2-2-2 核家族で、祖父母が近所にいるかどうか



核家族の家庭のうち30%は、近所に祖父母が住んでいることが分かる。

(2) 子供時代の生活と近所の大人との接触経験

まず、近所の大人との接触があったかどうか、これを家族形態別に比較を行ってみる。以下に示す図2-2-3が、その結果である。

さらに以下の図2-2-4にて、上記核家族より、近所に祖父母がいるかどうかでの比較を行った結果を示す。

図2-2-3 家族形態と近所の大人接触経験

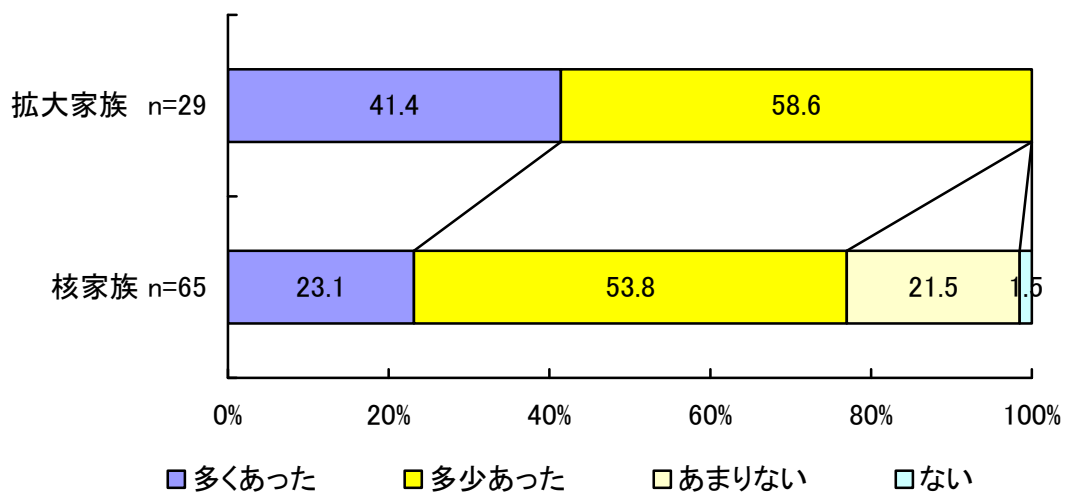


図2-2-4 近隣祖父母と近所の大人接触頻度

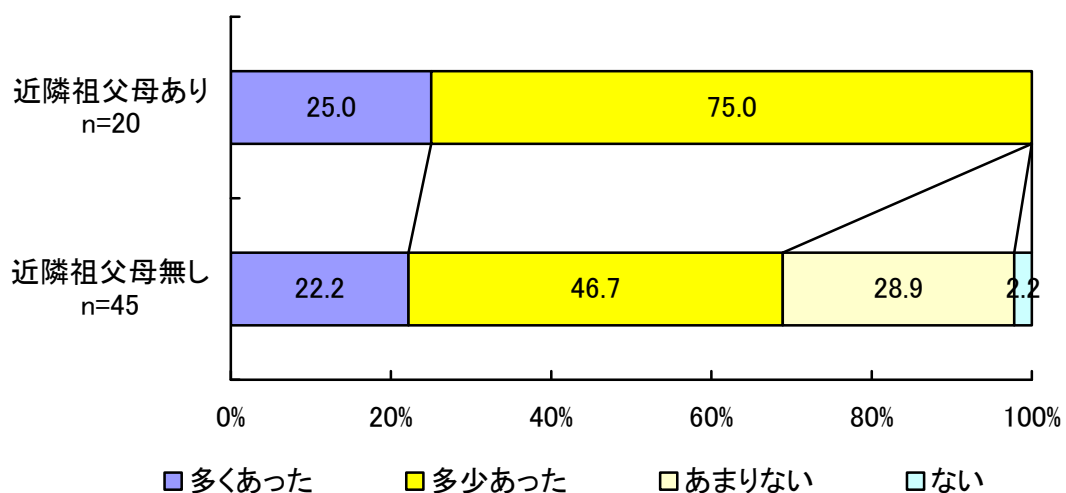


図2-2-3をみると、差はそこまで大きくはないものの、拡大家族では「多くあった」という回答が41%あったのに対し、核家族では23%に減った。そし

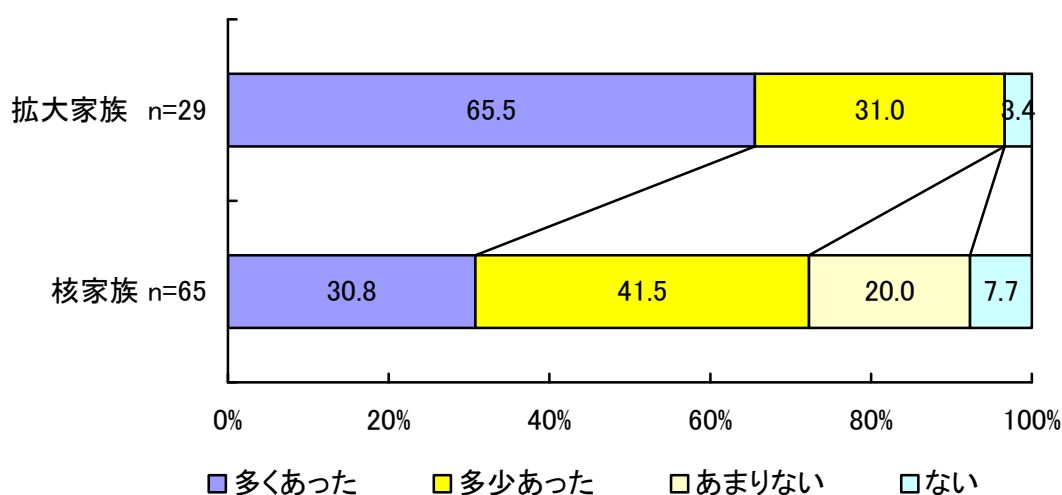
て拡大家族では全く存在しなかった「あまりない」「ない」という回答が、核家族ではそれぞれ22%、2%と現れた。

図2-2-4では、祖父母が近所にいる場合では現れなかった「あまりない」「ない」の回答が、祖父母がいない場合で現れる。すなわち、図2-2-3において、核家族に存在した「あまりない」「ない」の層は、全て祖父母が近所にいないケースであったといえる。

(3) 子供時代の生活と第三者との接触機会

子供時代に、地域の行事に家族として参加したかどうか、これを家族形態別に比較してみる。以下の図2-2-5が、その結果である。

図2-2-5 家族形態別と地域行事参加頻度(x2乗:0.025)



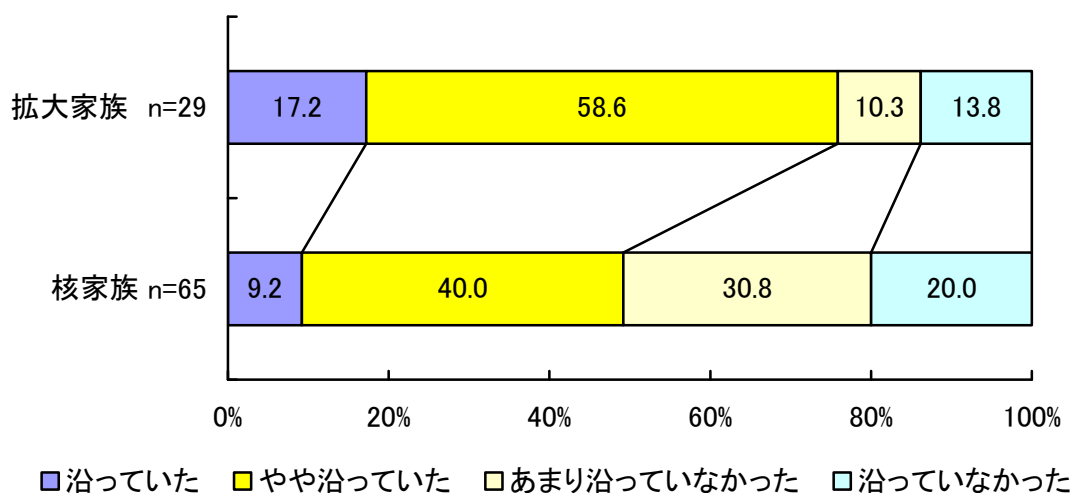
このように、拡大家族では66%あった「多くあった」という回答は、核家族では31%に減った。「あまりない」「ない」という回答は、拡大家族では3%だった物が、核家族では合わせて28%となっている。拡大家族と核家族で35%減っている「多くあった」という回答、その分核家族で、ネガティブな回答が25%増えているということである。

なお、この間では、核家族において祖父母が近所に住んでいるかどうかの比較では、大きな差異は現れなかった。

(4) 子供時代の生活と伝統・習慣

子供時代に、伝統や習慣に沿った生活を行ってきたかどうか、という設問がある。これは、子供時代に伝統的な風習に触れる機会の有無を探る為に設置した設問である。これを家族形態別に比較した。図2-2-6に結果を示す。

図2-2-6 家族形態別と伝統・習慣の有無



「沿っていた」「やや沿っていた」という回答が、拡大家族では75%を占めた。これに対し、核家族では、「沿っていた」「やや沿っていた」というポジティブな回答と「あまり沿っていなかった」「沿っていなかった」というネガティブな回答がほぼ半々に分かれた。つまり、拡大家族の方が傾向として伝統的な風習が守られていると見られる。

(5) 出身の家族形態と家族への意識

調査において、「近所付き合いが減る」「世代間交流が減る」などの項目を立て、核家族・拡大家族は、それぞれこれらの項目にどの程度該当するか、それを「1.あてはまる」から「5.あてはまらない」の5段階で聞いている。これらの設問を、ここではイメージに対する設問として扱う。この設問に対する回答を、核家族出身者と拡大家族出身者に分け、それぞれの選択肢番号の平均値を求めた。結果を図2-2-7、図2-2-8に示す。

図2-2-7では、左の4項目が核家族における利点、右4項目が核家族における欠点である。特に、右側3項目は、これまで取り上げた事柄である。核家族の利点は、プライバシーについて以外は、拡大家族出身者にも利点と認められている。しかし欠点に関しては核家族出身・拡大家族出身の両方で開きが出ている。拡大家族出身の方が、核家族の欠点を肯定する回答が多かったのに対し、核家族出身では、どちらでもないという中間の回答が多くなった。

図2-2-7 核家族に対するイメージ

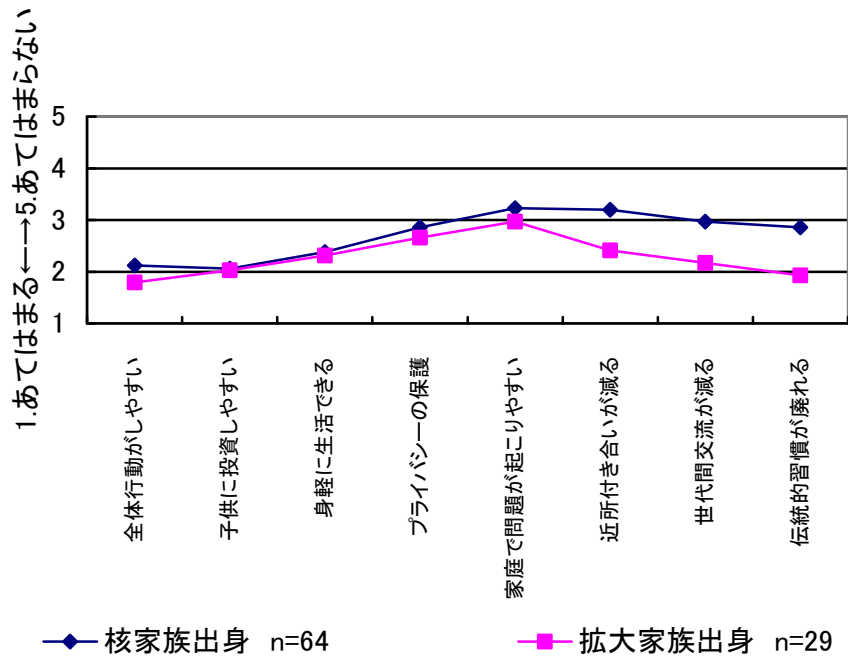
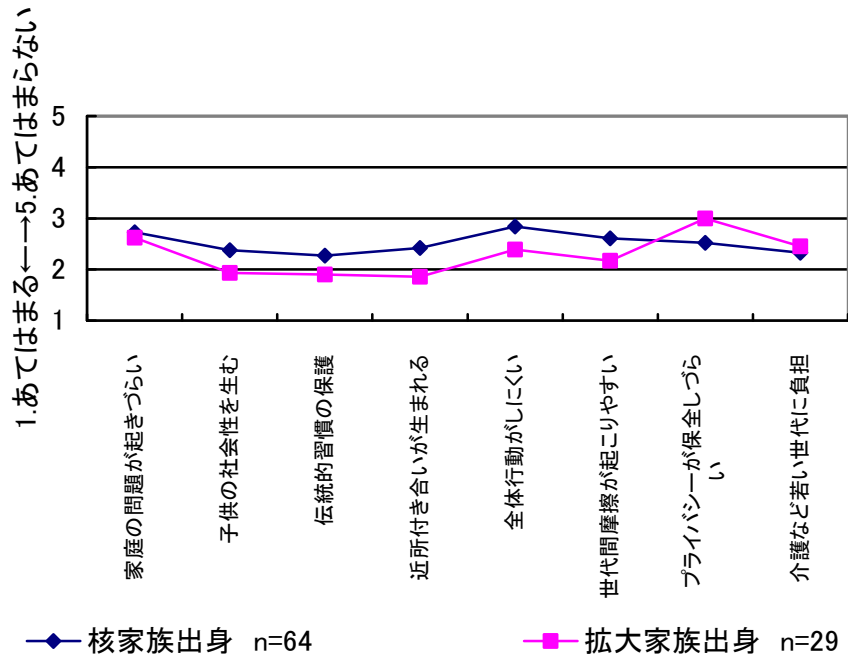


図2-2-8 拡大家族に対するイメージ



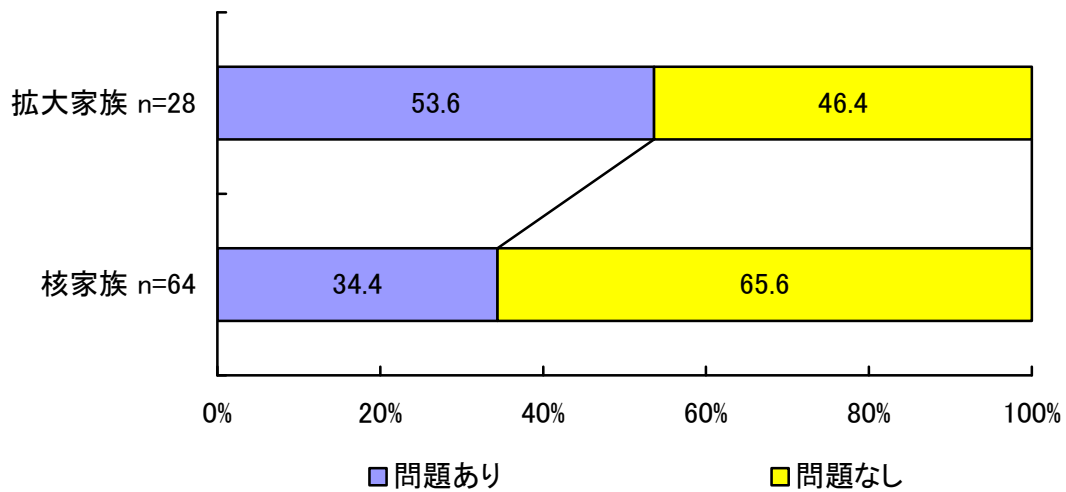
続いて、拡大家族の利点に関するイメージの集計結果である。核家族の項目と同じように、左4項目が拡大家族の利点、右4項目は拡大家族の欠点である。そのうち、左側にこれまで取り上げた3つの事柄に関する物が含まれる。

これによると、明確な傾向の違いは、核家族ほど現れなかったものの、利点のうち3項目は核家族出身者の中にもある程度肯定の回答があった。欠点に関しては、若い世代への負担以外の項目で、両者とも若干中間寄りになる。特にプライバシーについては、拡大家族出身の方が中間寄りとなる。核家族出身よりも拡大家族出身が中間に寄ったのは、この設問のみである。

(6) 出身家族の形態と核家族化への問題意識

現状の核家族化を問題と思うかという設問がある。これを家族形態別に比較を行ってみる。結果を図2-2-9に示す。

図2-2-9 家族形態と核家族化への問題意識



すると、拡大家族出身者では53%、核家族出身者では34%が、核家族化には問題があるとした。核家族出身者に比べ、拡大家族出身者の方が、核家族化への問題意識を多く持っていることになる。

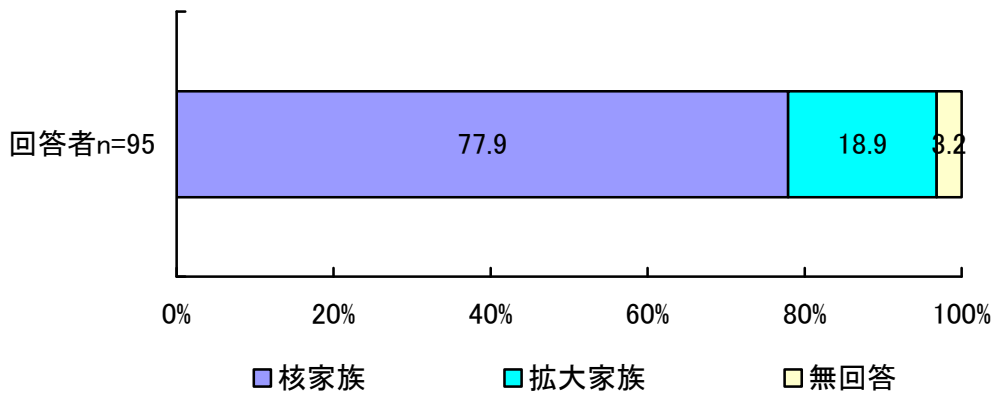
先のイメージについての設問と総合すると、核家族出身者の、核家族化への問題意識の低さは、家族＝核家族という印象が強く、拡大家族との比較や、両者のイメージを問われても、核家族以外の家族形態をイメージしづらいために、拡大家族出身者よりも中間に寄った回答が多かったのではないかと推測できる。

2.3 大学生が描く将来の家族像

(1) 将来求める家族形態

まず、将来家族を持つとしたら、核家族と拡大家族のどちらがいいかを聞いた。結果を以下の図2-3-1に示す。この図で判るとおり、75%以上の大学生が、核家族を希望しているのがわかる。

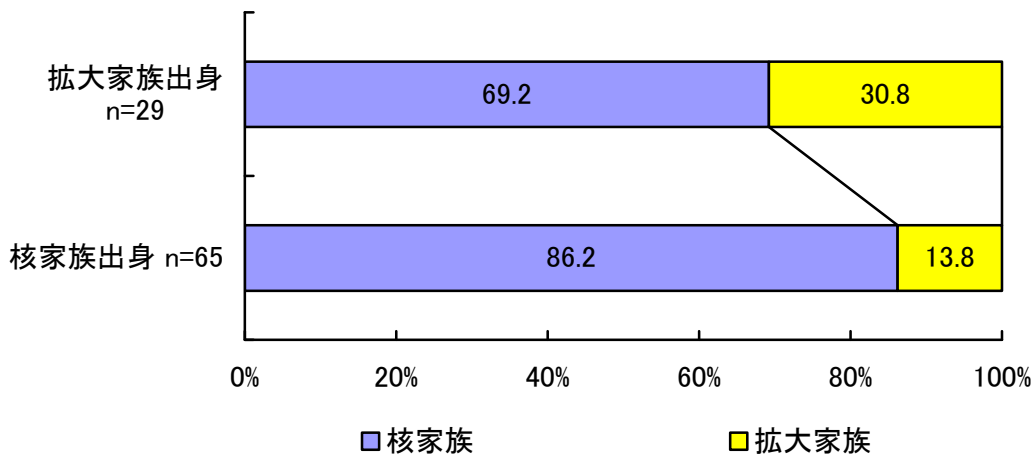
図 2-3-1 将来求める家族形態



(2) 出身の家族形態と将来希望する家族形態

将来家庭を持つとしたらどちらの家族形態がいいかを、家族形態別に比較してみた。以下に示す図 2-3-2 が、その結果である。

図2-3-2 出身家族形態と希望家族形態 (x2乗:0.023)

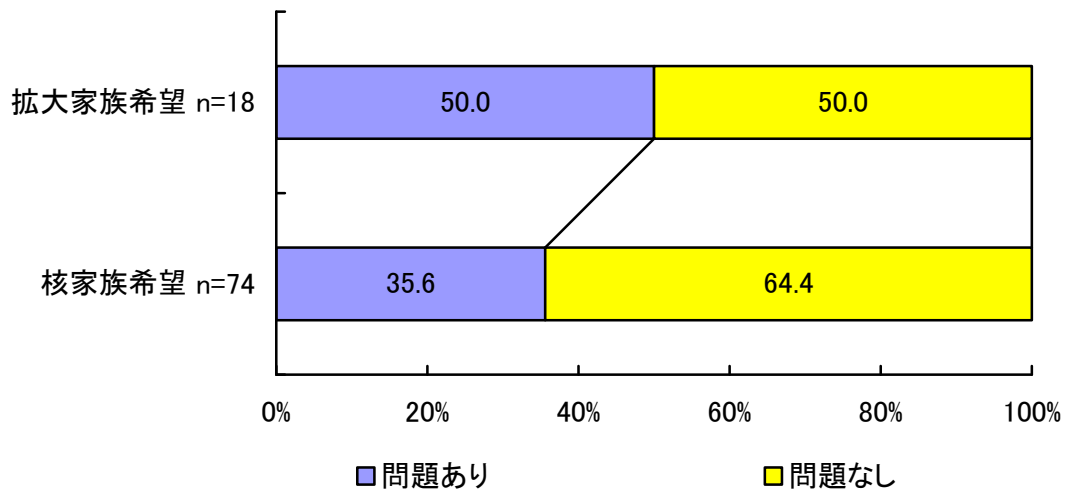


こちらは、拡大家族では 31% いた拡大家族志望が、核家族では 14% に落ち込んでいる。確かにいずれも半数以上は核家族を希望すると回答しているが、その中で拡大家族出身者は、拡大家族を希望するとの回答が増える傾向が見られる。育つ上で拡大家族を見てきているからなのか、将来像が若干変わってくるようである。

(3) 核家族化への問題意識と将来希望する家族形態

核家族化への問題意識の有無を、将来持ちたいと思う家族形態別に比較してみた。以下の図2-3-3でその結果を示す。

図2-3-3 核家族化への意識と希望家族形態

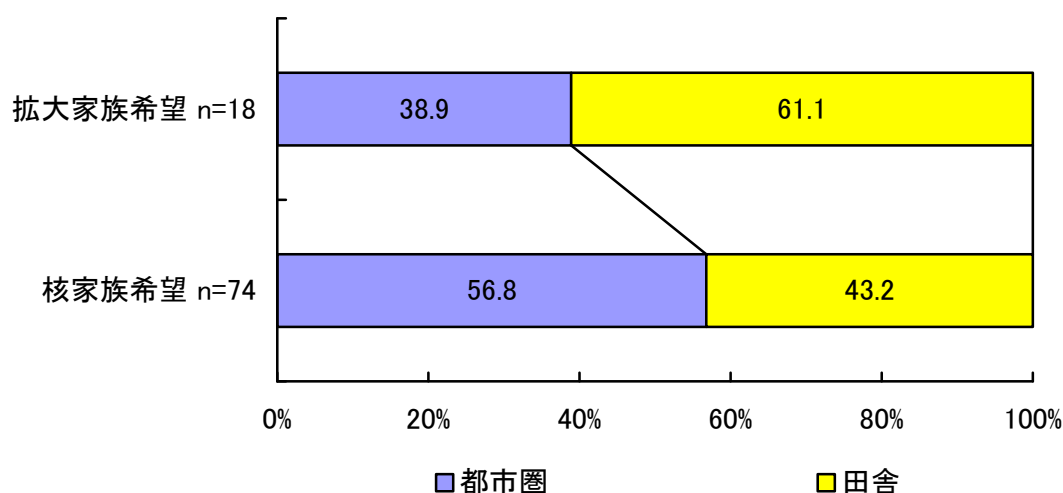


このように、拡大家族を希望する層で、核家族化に問題があるとの回答が増えている。核家族化への問題意識から、拡大家族を希望するとした者も中にはいるとみられる。但し、結局どちらにしても核家族希望の方が圧倒的に多い。結局、多少問題があると思っても、あまり拡大家族という選択肢は考えづらい様である。

(4) 出身の環境と将来の家族形態

調査票の末尾で、自分の育った環境を問う設問がある。田舎か都市近郊か都市部か、各個人の主観ではある物の、これによって、ある程度都市部出身者と地方出身者の振り分けを行える物と踏んで、この設問を置いた。これと、将来持ちたいと思う家族形態との比較を行ってみた。結果は以下の図2-3-4に示す。

図2-3-4 出身環境と希望家族形態



拡大家族希望で田舎出身という回答が多い。出身も希望も核家族が多いのに変わりはないが、その数少ない拡大家族希望者でこうした傾向が現れるのは、出身者から見比べても、元々存在する古くからの家族構成が田舎に行くほど根強く定着しているためか、或いは周囲でもそういう家が多いためか、自分たちの世代でもそうした家庭を持ちたいと願う様子が現れているのではないかと感じた。

(5) 希望する家族形態と家族への意識

先の項目にて、家族へのイメージを出身の家族形態別に比較を行ったが、全く同じ項目で希望する家族形態別の比較を行った。結果を以下の図2-3-5および図2-3-6に示す。

核家族に対するイメージの部分では、拡大家族希望者と比べ、核家族希望者には「3. どちらでもない」という回答が多いという傾向が見られた。しかし、拡大家族のイメージを問われると、いずれの回答も「2. ややあてはまる」が多くなり、拡大家族希望者と核家族希望者で傾向がほぼ一致した。これは、出身の家族形態別の調査と似た傾向である。核家族希望者でも、拡大家族の利点は認めているということになる。

図2-3-5 核家族の欠点に対するイメージ

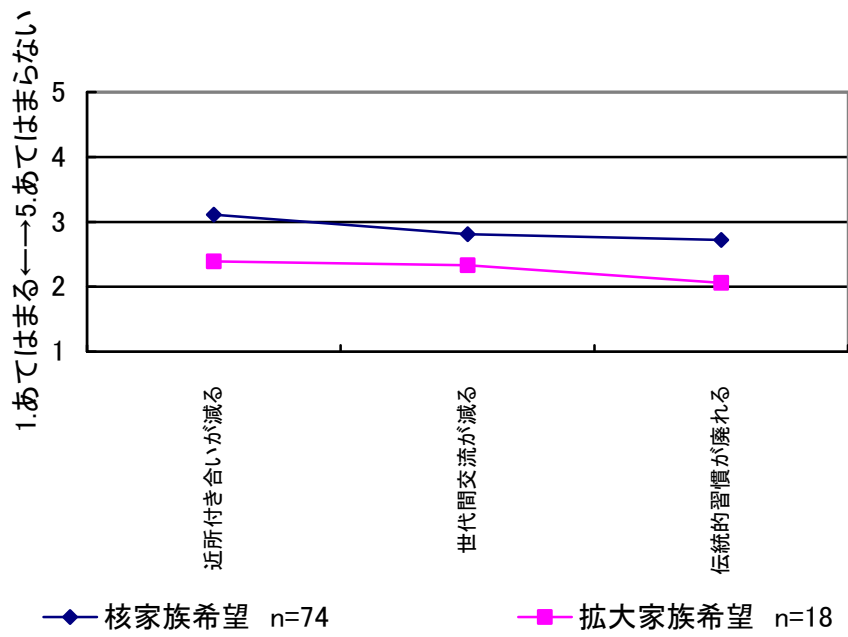
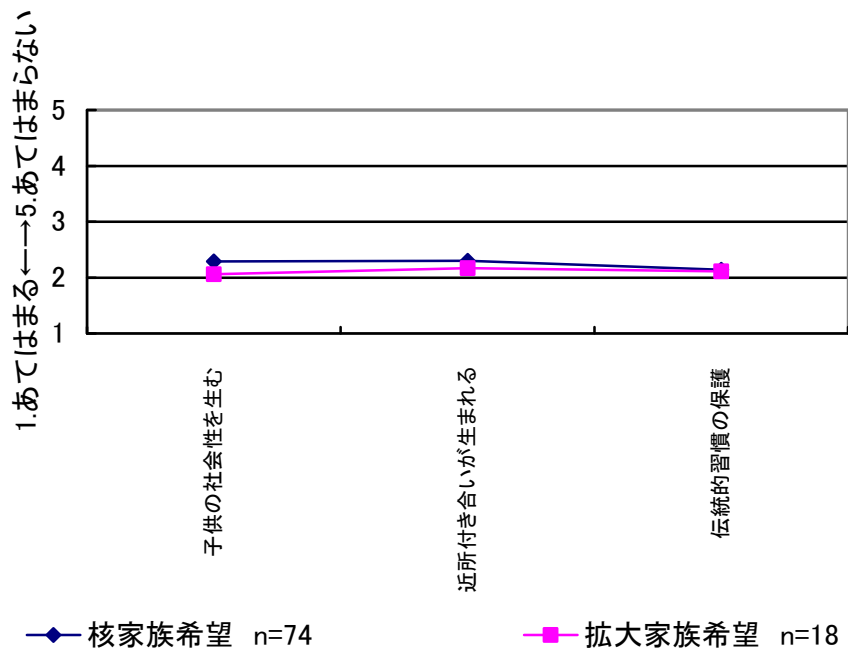


図2-3-6 拡大家族の利点に対するイメージ



第3章 総括と今後の課題

家族形態によっての差異の現れ方は、子供時代の経験を問うた場面では、期待通りになった。しかしその後、将来の家庭像の違いを比較したところ、そこに差異が現れることを期待したが、小さな差しか現れなかった。結局のところ、家族形態がその後の家族観に影響を及ぼすと言うわけではないという事が分かった。

また、調査票の中間には、核家族と拡大家族のイメージを問う設問や、核家族化への問題意識を問う設問を設置した。しかし、全体的に「どちらともいえない」との回答が多く、家族形態別の傾向も似通っており、一部設問ではデータとして使用することが出来なかった。特に、拡大家族のイメージを問う設問では、多くの設問で「どちらでもない」との回答が多かった。本論文内で取り上げた物もあるが、これ以外のデータでこういった傾向が現れているのである。

こうした設問では、個人の価値観や各個人の経験も、多少影響があろう。しかし、核家族化が始まって、世代が一回りした今の大学生には、もはや国家単位で標準と位置づけられた「核家族」という家族形態以外が、想像しづらくなってきているのではないかとも思えた。また、よほど関心がない限り、家庭という物にあまり目を向けていないのかもしれない、という印象も持った。

課題としては、調査票の作り込みが甘く、結果的に活用できないデータを多数出してしまった。家族形態での比較を重視した作りであったにもかかわらず、一部で有意な差が現れず、使えなくなってしまった。また、前述の似通った傾向が現れたところでは、少し単調な設問が続きすぎたと反省している。もう少し内容を搾り、その分検討を重ねるべきであったと思う。

参考文献

日本経済新聞社 未知なる家族 日本経済新聞社(2005)

袖川芳之・花島ゆかり・森住昌弘 平成拡大家族-団塊と団塊ジュニアの家族学
電通(2005)

朝日新聞社 AERA MOOK 家族学のみかた。 朝日新聞社(1998)

財団法人 家計経済研究所 新・現代核家族の風景 大蔵省印刷局(2000)

厚生労働省 厚生労働白書 <http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/> (2001)(同
2005)

家族構成に関する調査

広報学科3年生(ハツ橋ゼミ所属) 内野涼介

調査実施:10月30日13:20～(授業名:出版論Ⅱ) 回収数:46 無効票:なし

11月1日13:20～(授業名:社会学特殊講義Ⅱ) 回収数:51 無効票:2

問1 あなたの家は、どのような家族構成でしたか。(1つに○)

(あなたは「子」にあたります)n=95

- | | |
|------------------------|--------------------------------|
| 1. 親と子の2世代のみ(核家族) 68.4 | 2. 祖父母・親・子を含む、3世代以上(拡大家族) 30.5 |
| 3. その他 1.1 | |

問2 あなたの家の近所には、祖父母は住んでいましたか。(1つに○)

(近所とは、徒歩10分程度の範囲とします)n=66 無回答:1.5

- | | |
|------------|-------------|
| 1. はい 30.3 | 2. いいえ 68.2 |
|------------|-------------|

問3 あなたの家の近所には、祖父母以外に親類は住んでいましたか。(1つに○)

(近所とは、徒歩10分程度の範囲とします)n=95 無回答:3.2

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 住んでいた 22.1 | 2. 住んでいない 74.7 |
|---------------|----------------|

問4 あなたの家族の構成人員は何人ですか。(1つに○)n=95 無回答:1.1

- | | | | | | |
|-------------|------------|------------|------------|-----------|-------------|
| 1. 3人以下 7.4 | 2. 4人 44.2 | 3. 5人 28.4 | 4. 6人 12.6 | 5. 7人 4.2 | 6. 8人以上 2.1 |
|-------------|------------|------------|------------|-----------|-------------|

問5 あなたは何人兄弟ですか。(1つに○)n=95 無回答:3.2

- | | | | | |
|-------------|------------|------------|-----------|-------------|
| 1. 一人っ子 8.4 | 2. 2人 54.7 | 3. 3人 28.4 | 4. 4人 4.2 | 5. 5人以上 1.1 |
|-------------|------------|------------|-----------|-------------|

問6 あなたの家庭は、どのような形で仕事をしていましたか。(1つに○)n=95

- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| 1. 家族全体で働く 6.3 | 2. 両親の両方が働く(どちらもフルタイムで) 30.5 |
| 3. 両親が両方働く(どちらかがパートなど) 35.8 | 4. 両親の片方が働く 25.3 |
| 5. その他 2.1 | |

問7 あなたは、近所の、親以外の大人と交流はありましたか。(1つに○)n=95

- | | | | |
|---------------|---------------|---------------|-----------|
| 1. 多くあった 28.4 | 2. 多少あった 55.8 | 3. あまりない 14.7 | 4. ない 1.1 |
|---------------|---------------|---------------|-----------|

問8 あなたの家庭では、地域の祭りや式典などといった地域行事の運営に参加したことがありますか。

(1つに○)n=95

- | | | | |
|----------------|----------------|--------------------|----------------|
| 1. よく参加した 41.1 | 2. 時々参加した 38.9 | 3. あまり参加しなかった 13.7 | 4. 参加していない 6.3 |
|----------------|----------------|--------------------|----------------|

問9 あなた自身は、それに参加していましたか。(1つに○)n=95

1. よく参加した 37.9	2. 時々参加した 40.0	3. あまり参加しなかった 14.7	4. 参加していない 7.4
----------------	----------------	--------------------	----------------

問10 あなたの家庭の誰かが、下記の活動における役員を務めていたことがありますか
(それぞれ1つに○)

自治会や町内会 n=95	1. ある 69.5	2. ない 16.8	3. 分からない 13.7
PTA 活動 n=95 無回答:1.1	1. ある 64.2	2. ない 20.0	3. 分からない 14.7

問11 あなた自身は、子供会など、地域の有志活動に参加したことがありますか。(1つに○)n=95

1. よくある 38.9	2. 何回かある 38.9	3. あまりない 17.9	4. ない 4.2
--------------	---------------	---------------	-----------

問12 あなたの家は、伝統や習慣にならって生活していましたか。(1つに○)n=95

1. そうだった 11.6	2. どちらかといえばそうだった 45.3
3. あまりそうではない 25.3	4. 特にない 17.9

問13 あなたは、家族全体でのレジャーなどにどのくらいの頻度で出かけましたか。(1つに○)
n=95 無回答:2.1

1. 月1回以上 12.6	2. 3ヶ月に1回程度 25.3	3. 半年に1回程度 28.4
4. 1年1回程度 16.8	5. 2~3年に1回以下 10.5	6. そういった経験はない 4.2

問14 あなたは、現在どのように生活していますか。(1つに○)n=95

1. 実家暮らし 36.8	2. 下宿して一人暮らし 53.7
3. 実家を離れて居候 5.3	4. その他 4.2

問15 あなたは家族を離れたと思うことはありますか。(1つに○)n=36

1. よくある 30.6	2. たまにある 61.1	3. あまりない 5.6	4. ない 2.8
--------------	---------------	--------------	-----------

問16 自分の故郷に帰省する回数は、年に何回ですか。(1つに○)n=59

1. 0回 0	2. 1回 11.9	3. 2回 23.7	4. 3回 32.2
5. 4回 8.5	6. 5回 13.6	7. 6回 6.8	8. 7回以上 3.4

問17 核家族のイメージについて、あてはまる1つを選んでください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
a. 転居やレジャー等の全体での行動がしやすい n=95	32.6	43.2	15.8	5.3	3.2
b. 子供にお金をかけやすい n=95	28.4	45.3	20.0	5.3	1.1
c. 身軽な生活が出来る n=95 無回答:1.1	18.8	41.1	26.3	10.5	2.1
d. 各個人のプライバシーが守られやすい n=95	13.7	27.4	33.7	15.8	9.5
e. 監視の目がなく、家庭内の問題がおきやすい n=95	6.3	18.9	38.9	25.3	10.5
f. 近所づきあいが減る n=95 無回答:1.1	11.6	24.2	30.5	22.1	10.5
g. 世代間交流が減る n=95	21.1	23.2	27.4	18.9	9.5
h. 伝統的な習慣や冠婚葬祭などへの意識・知識が希薄になりやすい n=95	18.9	31.6	28.4	16.8	4.2

問18 拡大家族イメージについて、あてはまる1つを選んでください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
a. 人の目が届きやすく、家族の問題が起こりづらい n=95 無回答:1.1	12.6	23.2	49.5	8.4	5.3
b. 子供に社会性が生まれやすい n=95 無回答:1.1	18.9	46.3	27.4	3.2	3.2
c. 様々なしきたりや伝統が保護される n=95 無回答:1.1	22.1	49.5	21.1	3.2	3.2
d. 近所づきあいが生まれる n=95 無回答:1.1	22.1	38.9	29.5	7.4	1.1
e. 転居やレジャーなどの全体での行動がしにくい n=95 無回答:2.1	13.7	24.2	43.2	10.5	6.3
f. 世代間での摩擦や、古い習慣などに縛られやすい n=95 無回答:1.1	20.0	29.5	36.8	7.4	5.3
g. プライバシーの保全がしづらい n=95 無回答:1.1	14.7	27.4	37.9	13.7	5.3
h. 介護などで負担が若い世代に掛かる n=95 無回答:1.1	20.0	33.7	34.7	9.5	1.1

問19 今の核家族化を、どのように感じますか。(1つに○)n=95 無回答:2.1

1. 問題があると思う 2.1	2. 多少問題があるとおもう 36.8	3. どちらとも言えない 40.0
4. あまり問題があると思わない 13.7	5. 問題があるとは思わない 5.3	

問20 世の中の流れとして、DV や虐待など家庭内の問題が起こるのは、仕方ないと思いますか
(1 つに○)n=95

1. 思う 24.2

2. 思わない 75.8

問21 あなたは将来、親の面倒を見なければならなくなると思いますか。(1 つに○)n=95

1. はい 77.9

2. いいえ 22.1

問22 あなたは将来、住まいを実家の近くに設けたいと思いますか
(1 つに○) n=95

1. はい 31.6

2. いいえ 68.4

問23 あなたは、将来世帯を持つとしたら、どのような家族形態を望みますか。(1 つに○)n=95 無回答:3.2

1. 核家族 77.9

2. 拡大家族 18.9

問24 あなたは、将来どこで暮らしたいですか。(1 つに○)n=95 無回答:1.1

1. あなたの故郷 12.6

2. あなたの故郷に近い地域 38.9

3. 出身地とは関係のなく都市部・その近郊 38.9

4. 出身地とは関係のなく地方部 8.4

問26 あなたの性別をお答えください。(1 つに○)n=95 無回答:2.1

1. 男 45.3

2. 女 52.6

問27 あなたの学年を教えてください。(1 つに○)n=95 無回答:2.1

1. 1年生 0

2. 2年生 44.2

3. 3年生 47.4

4. 4年生 6.3

問28 あなたの所属学科をお答えください。(1 つに○)n=95 無回答:2.1

1. 広報 92.6

2. 情報システム 3.2

3. 経営情報 1.1

4. 国際コミュニケーション 0

5. 国際関係 1.1

6. 健康栄養 0

問29 あなたの出身を教えてください。(1 つに○)n=95 無回答:1.1

1. 北海道地方 3.2

2. 東北地方 17.9

3. 関東地方 60.0

4. 中部地方 13.7

5. 近畿地方 0

6. 中国地方 3.2

7. 四国地方 0

8. 九州地方 1.1

問30 あなたの育った環境は、どちらだと思いますか。(1 つに○)n=95 無回答:1.1

1. 都市部 14.7

2. 都市近郊 36.8

3. 田舎 47.4

以上、調査単純集計結果